

第3回大牟田市まちづくり基本条例 市民検討会摘録

開催日時：平成26年3月28日（金）午後6時30分から午後9時

開催場所：市役所北別館第1会議室

出席状況：市民検討会委員18人、職員6人、ファシリテーター1名、事務局1人

傍聴者：なし

1 開会

2 事務局説明

配布資料の確認及び本日のスケジュールの説明

3 参加者グループ分け・自己紹介

はじめに、ファシリテーターから挨拶を兼ねて簡単に、ワークショップを成功させるためのコツについて説明があり（①発言は長すぎず短すぎず1分程度で②最初に結論から話すこと）、そのあとグループ分け（6班）を行った。

4 前回の市民検討会の振り返りと検討会での意見の集約方法の確認

（1）前回の市民検討会の振り返り

前回の検討会では、大牟田市で行われている市民活動の状況及び、協働をすすめるための課題（市民側の課題、行政側の課題）についてワークショップを行い、出された意見について事務局でまとめたことを説明。

（2）意見集約表について

出された意見を「市民」「行政」「その他」に分けて事務局でまとめたものであることを説明。

（3）意見の集約方法（条例へどのように盛り込むか）について

出された意見を因数分解し（意見を課題→問題→原因に分解したもの）解決策を探り、条例に盛り込んでいく。

5 ワークショップ

まちづくりをすすめるための制度や仕組みとして「情報」「市民参加」「協働」等がある。今回の検討会では、それらについて意見をだしてもらう。

（1）情報について（市民と行政との情報共有に関する認識のずれがなぜ発生するのか）

① 情報と聞いて何をイメージするか（付箋：ピンク）

② 情報がなくて困ったこと。情報が伝わらなくて困ったこと。（付箋：黄）

③ なぜ情報のやりとりが上手くいかないのか（付箋：青）

- (2) 市民参加について（行政の計画や事業に参加すること。企画、立案、実施、どの段階の参加でも良い）
- ① 委員のなかで、行政の活動に参加した経験がある人が、その経験を同じ班の人に伝える。（付箋：ピンク）
 - ② 参加して困ったこと、感じたこと（①の話聞いて思ったことでもよい）。（付箋：黄）
 - ③ 市民参加の問題点（なぜ参加しにくいのか）（付箋：青）
- (3) 協働というテーマについて思ったこと（フリートーク）

- 6 検討会長である久留米大学の伊佐先生の講評（今回だされた意見を見て）
今回の検討会で出された意見を見て、以下のような講評があった。
（今回は情報に関することが主）
- ① 認識のずれ（ギャップの問題）
行政からみて（住民に）知らせたい、知らせないと思っている情報と市民が知りたい情報にギャップがある。だたし一言で住民といっても（i）古くから住んでいる人（ii）新しく転入してきた人（iii）地域別の特性（iv）年齢層などいろいろな人がいる。ギャップを埋めるためには、市のホームページを属性ごとに見やすいようにするなど工夫する必要がある。
 - ② 情報を受け取る側の問題点
情報を受け取る側も、積極的に自分から情報を集めにいく人もいれば、受身で情報が届くのを待っている人もいる。また、インターネット環境の有無などアクセスのギャップが存在する。また一度紙で情報をもらっても捨ててしまい、必要な時にアクセスできない場合もある。そういった問題の解決には情報発信の多様化や、情報へのアクセスをしやすくするなどする必要がある。また受身の人は、自分から積極的に情報を集めに行くなど行動する必要がある。
 - ③ 情報を受けとる姿勢の問題
情報を持っている人と持っていない人の接点が少ないのが問題。情報を持っていない人は持っているものと普段から接点をもつよう心がける必要がある（情報をもっているものの例：近隣の住民、議会、行政など）
 - ④ 広報の問題
出している方は十分だと思っても、受け取る側からすると不十分であることが多い。広報をもっと魅力あるものにする必要がある。
 - ⑤ その他
住民がわかりやすいように条文や解説を方言で書くのも1つの方法としてある（久留米市の市民活動促進条例の制定に関わった経験から）

7 次回開催についてと事務局からのお知らせ

(1) 開催日時：平成26年4月25日(金)午後6時30分

開催場所：市役所北別館 第1会議室

(2) 事務局からのお知らせ

4月19日(土)にイオンモール大牟田2階イオンホールにて九州大学から講師をお呼びして講演会を実施するので、委員の方の出席を是非お願いしたい。